

みんなで創ろう 環境共生型観光地



やんばる
YAMBARU

2023年2月 ver1

やんばる 観光ガイドライン

～地域・旅行者・自然がうまく循環するためのルールブック～

内容

1. ガイドライン設置の目的	3
2. 「やんばる」とは?	4
(1) うちなーんちゅの心のふるさと	4
(2) 「やんばる」の自然や歴史・文化の価値	4
(3) やんばる観光の課題	11
3. 私たちが目指す「やんばる」の姿	12
4. やんばるに訪れるみなさまへ	13
(1) やんばるの魅力を次世代へ	13
(2) 基本的な観光ルールとマナー	13
(3) 集落地域のルールとマナー	15
(4) 海・山・川など自然地域のルールとマナー	16
5. やんばるに住む私たちができること	18
安全安心に旅を楽しむために	20

【やんばる(沖縄北部圏域)の概要】

北部地域の総面積は 824.36k m²で、沖縄県全体の約 36%を占め、県内の圏域で最も広い面積を有しています。

北部地域（12 市町村）の総人口は 128,259 人（令和 2 年国勢調査）で、沖縄県総人口に占める割合は 11.3%と面積と比較して多くありません。



1. ガイドライン設置の目的

やんばるの価値を知ってもらい、ファンになってもらいたい、そして、一緒に「やんばる」を守ってもらいたい！

沖縄本島北部“やんばる”が持続可能な観光地であるためには、美しい自然資源と伝統文化、地域の暮らしを守り、継承していく必要があります。

そのためには、地域と旅行者と自然が本来あるべき正しい姿、良い関係性をつくる必要があります。

旅行者がやんばるの自然や歴史文化を楽しむためには、地域、旅行者それぞれが担う責任と役割について考え、一人一人が意識を高く持ち、責任ある行動を取ることが非常に重要です。

我々はやんばるで起こっている現状や課題を伝え、共有し、持続可能な観光地の実現のため、地域と旅行者の良い関係性に向けた環境共生型観光地の指針として、ガイドラインを設置します。



地域・旅行者・自然の良好な関係で生まれる環境共生型観光地



2. 「やんばる」とは？

(1) うちなーんちゅの心のふるさと

沖縄県の北部地域は、古くから「山原（やんばる）」と呼ばれています。どこからやんばるか？という明確な定めはありませんが、おおむね沖縄の北部、恩納村や金武町から北の9つの市町村と、周辺の3つの離島村（伊江村、伊是名村、伊平屋村）を指します。

亜熱帯の気候風土の特徴を表すサンゴ礁から成り立つ美しい海浜、常緑広葉樹の森林が広がり、世界的にも貴重でかつ多様な生態系が育まれています。また、歴史文化、生活習慣においても沖縄の原風景を色濃く残す場所です。

そこに残る沖縄らしい風景はまさに、うちなーんちゅ（沖縄の人）の心のふるさとなのです。

(2) 「やんばる」の自然や歴史・文化の価値

【自然環境】 島の形成過程を背景とする多種多様な生態系が人との共存の中で守られてきた！

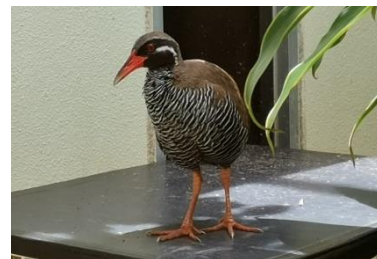
沖縄県は亜熱帯気候下に属し、我が国の中では特異な自然生態系を有しています。

国頭村から今帰仁村～恩納村にかけての西海岸沿岸部はサンゴ礁に囲まれた美しい景観を有し沖縄海岸国定公園に指定されています。北部の国頭村、大宜味村、東村の3村の一部は2016年9月に「やんばる国立公園」に指定され、さらに2021年7月には「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の一つとして世界自然遺産に登録されました。

世界自然遺産に登録された国頭村・大宜味村・東村の「やんばる国立公園」は、国内最大級の亜熱帯照葉樹林が広がり、島々の地史を背景に、ヤンバルクイナやノグチゲラなど多種多様な固有動植物及び希少動植物が生息・生育しています。

この、やんばるの森は、古くから建築材・造船材、薪炭材などに利用され、17～18世紀ころには山林資源が荒廃した時期がありました。当時の三司官だった蔡温は、風水の概念を用いた資源管理法を指導し山林の管理を行いました。こうした先代の取り組みがあって、現代まで森林を残し多様な生態系を維持してきたことで、現代において世界自然遺産という国際的な価値を認められたのです。

一方、島を取り巻くサンゴ礁も亜熱帯の森と並んで、多様な生態系を育む環境として知られます。サンゴ礁は「サンゴ」など生物の死骸が積み重なってできたもので、まさに生物たちが作り上げてきた軌跡となっているのです。こうしたサンゴも、先人たちが大切にしてきたことで現在私たちに美しい景観や豊富な海洋資源をもたらしています。



【歴史・文化】独自の文化圏の歴史、自然を敬い共存する中で継承されてきた伝統文化が息づく

本部半島には世界文化遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つ、「今帰仁城跡」が所在します。かつて琉球統一前の「三山時代」の北山王の居城で、今帰仁を中心に羽地、名護、国頭、金武などの間切、奄美群島の一部を含む周辺の島々を支配下に治め北山文化圏を形成していました。



やんばる地域では海岸部に迫る山岳地帯の小さな海岸低地に集落が立地することが多く、集落後方の山・丘は御嶽（ウタキ）という村を守る神が鎮座する聖域とされ、集落内の井戸や湧き水等も拝所して大切にされてきました。山間部では集落間の距離が離れ共同体の結びつきが強く、ユイマールと呼ばれる共同作業、助け合いの精神が育まれました。



各集落では豊年祭や海神祭（ウンジャミ）などの伝統行事が現在でも多くの地域で続けられており、特に「安田のシヌグ」（国頭村）や「塩屋のウンガミ」（大宜味村）、「伊江島の村踊」（伊江村）は国指定重要無形民俗文化財に指定されています。

こうした歴史・文化を重んじ、郷土愛に満ちた人々の思いで今日に受け継がれています。

【観光リゾート地としての優位性】美しい自然とともにある暮らし、非日常を感じさせる風土

沖縄北部西海岸は、復帰前から沖縄海岸政府立公園に指定され、その優れた景観が注目されてきました。サンゴ礁の変化に富んだ海岸線は、常に水平線を望みながらのロードパークとも言え、1975年に開催された沖縄国際海洋博覧会を契機として観光地として注目を浴び、西海岸を中心にリゾート施設の立地が進んできました。



さらに美ら海水族館の建設（2012）や体験型観光の人気の高まりを受け周辺地域の自然・歴史・文化も注目されるようになり各地に宿泊施設も増えつつあります。

海や山の大自然、ゆったりとした時間の流れと歴史・文化を感じさせる風土、さらに人々のおおらかさなど、リゾート地としての可能性をまだまだ秘めています。



【今後の沖縄の財産へ】沖縄の原風景を残す地域としてさらにその価値を高めていく

沖縄県は他の都道府県にはない独特な自然や歴史、文化等が残っていますが、やんばるは其中でもその特殊性を色濃く残す地域です。沖縄らしさ、アイデンティティを感じさせる場所として、地域や旅行者も含めてその価値を認識し守り育てていくことでさらに価値は高まり、今後の沖縄観光の財産となっていくでしょう。

やんばる MAP





伊平屋村
伊平屋島
野山島
具志川島



伊是名村
伊是名島
屋那覇島



伊江村
伊江島



東シナ海
本部町
今帰仁村
今帰仁城跡 (世界遺産)
万座毛
恩納村
金武町
読谷村
伊波城跡
うるま市

アクセスマップ (那覇空港までの所要時間)

自動車利用の場合 (道の駅許田 出発)

- 一般道の場合 / 約2時間40分 ※国道 58 号利用
- 高速道路の場合 / 約1時間20分 ※沖縄自動車道・那覇空港自動車道利用

バス利用の場合 (道の駅許田発)

- 路線バス / 約2時間~2時間30分
- やんばる急行バス / 約1時間40分

※所要時間は、目安として示したものでの渋滞等交通状況により変わるためご注意ください。



12 伊是名玉御殿 伊是名村

【道の駅許田より】(約120分、約54km)

琉球第二尚氏正統の始祖、尚円王の伊是名邸の家族や戦跡が祭られているお墓です。



HP QRコード

11 伊平屋島の念頭平松 伊平屋村

【道の駅許田より】(約145分、約89km)

優雅で巨大な枝振りから観客にも歌われている島のシンボル。沖縄2大名松の一つ。



HP QRコード

10 城山(グスクヤマ) 伊江村

【道の駅許田より】(約90分、約38km)

城山(くすくやま) 頂上からの眺めは絶景スポット、沖縄八景の一つでもあります。



伊江村HP QRコード

9 万座毛周辺活性化施設 恩納村

【道の駅許田より】(約85分、約19km)

万座毛周辺活性化施設は、象の形をした万座毛の入口に新しく出来た観光スポット。



HP QRコード



やんばるの奇跡の森 世界自然遺産

世界自然遺産の登録地は、本島北部の国頭村・大宜味村・東村の3村に跨り、国内最大級の亜熱帯照葉樹林が広がります。ヤンバルクイナをはじめとした希少生物が多数生息するなど、生物多様性に富んだ自然があり、豊かな森は「奇跡の森」とも呼ばれています。



1 辺戸岬観光案内所 国頭村
 「道の駅」より(約85分、約7km)
 観光案内所や展望デッキを併設した、沖縄本島最北端のドライブ観光スポット

HP QRコード

2 たかえ特産品販売所 東村
 「道の駅」より(約70分、約4km)
 地元パイナップルや野菜、紅塩、ハーブ石鹸等地域の特産品が購入できる販売所

東村HP QRコード

3 海風亭 大宜味村
 「道の駅」より(約45分、約2km)
 大宜味村にある緑の山に囲まれ静かな入り江が広がる風光明媚な観光スポット

大宜味村HP QRコード

4 古宇利ふれあい広場 今帰仁村
 「道の駅」より(約45分、約4km)
 古宇利ビーチに隣接したレストランやお土産品などを販売する古宇利島の観光拠点

今帰仁村HP QRコード

5 ネオパークオキナワ 名護市
 「道の駅」より(約20分、約1km)
 自然環境が再興され、世界の鳥や動物たちにゼロ距離でふれあえる動物公園

HP QRコード

※所要時間は、目安として示したものの渋滞等交通状況により変わるためご注意ください。

凡例			
	道の駅		行政機関施設
	休憩所		観光スポット
	史跡・名勝		ビーチ
	世界自然遺産		やんばる国立公園
	沖縄県指定公園		やんばる国立公園(国庫)
	沖縄自動車道		標高(標高階別)
	環状自動車道		一般国道
	自動車道		その他道路
	一般国道		

- お土産 shop
- レストラン
- アクティビティ
- 観光スポット

8 ネイチャーみらい館 金武町
 「道の駅」より(約20分、約20km)
 自然体験学習やキャンプも行える自然に囲まれた体験型宿泊施設

HP QRコード

7 松田園乳洞 豊後津村
 「道の駅」より(約15分、約8km)
 太古の姿を残す鍾乳洞内を本格探検できる。気軽にできる散策コースも有。※要予約

HP QRコード

6 八重岳の森公園 本部町
 「道の駅」より(約40分、約22km)
 約7,000本の樹齢樹が咲き誇る桜の名所「八重桜」中庭にある公園で遊覧や広場等も完備

HP QRコード

コラム 認められたやんばるの自然や文化

世界自然遺産

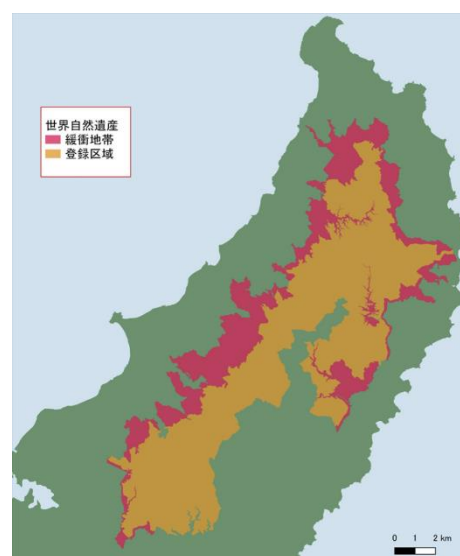
奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島は、白神山地、屋久島、知床、小笠原について日本で五番目の世界自然遺産として、2021年7月26日に登録されました。登録地は、黒潮と亜熱帯性高気圧の影響を受けた温暖で多湿な常緑広葉樹多雨林に覆われていることや、大陸との分断・結合を繰り返してきた地史を反映して、多くの種が生息・生育しています。これらの生きものには絶滅危惧種や中琉球・南琉球の固有種が多く、登録地は世界の生物多様性のホットスポットとなっています。

<https://www.ufugi-yambaru.com/yanbaru/introduce>



やんばる国立公園

やんばる国立公園は、沖縄島北部に位置し、平成28年9月15日に33番目の国立公園として指定されました。国内最大級の亜熱帯照葉樹林が広がり、琉球列島の形成過程を反映して形成された島々の地史を背景に、ヤンバルクイナなど多種多様な固有動植物及び希少動植物が生息・生育し、石灰岩の海食崖やカルスト地形、マングローブ林など多様な自然環境を有しています。また、このような自然環境の中での日々の暮らしで育まれてきた伝統的なやんばるらしさが息づく人文景観が特長です。やんばる国立公園では、このような亜熱帯の大自然を舞台に、景勝地めぐり、トレッキング、カヌー、アニマルウォッチング、ドライブなどのレジャーが盛んに行われており、訪れる公園利用者へ良質な自然とのふれあいの場・機会を提供しています。



<https://www.env.go.jp/park/yambaru/point/index.html>

沖縄海岸国定公園

沖縄海岸国定公園は、沖縄島読谷村残波岬から名護市世富慶までの海岸沿いと嵐山及び屋我地島を含めた羽地内海から辺戸岬までの海岸一帯と学術的に貴重な動植物のみられる与那覇岳、名護岳を含めた区域と周辺海域を合わせた19,352ヘクタール（陸域6,817ヘクタール、海域12,535ヘクタール）です。沖縄特有の隆起石灰岩の海蝕崖とサンゴ礁の変化に富んだ海岸線は、常に水平線



を望みながらのロードパークとも言えるものです。山岳地帯の与那覇岳一帯は、典型的な亜熱帯常緑広葉樹林を形成しており、ノグチゲラなど貴重な動物の生息地でもあります。また、名護市字喜瀬及び恩納村字仲間地先海面については、稀少なサンゴや色彩豊かな魚類が豊富に生息しているため、この地域を『海域公園地区』として指定しています。また、一部の動植物については、採取・捕獲が規制されています。

https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/koen/okinawa_kaigan_kokuteikouen.html

世界文化遺産

沖縄には、観光地としても有名な9つのスポットが世界遺産に登録されています！そこで今回は、沖縄の歴史、文化にふれられる世界遺産やその周辺の観光スポットをまとめて紹介していきます。

約570年前から約120年前までの約450年間、かつて沖縄には首里城を中心とした琉球王国がありました。

2000年にユネスコの世界文化遺産に登録された「琉球王国のグスク及び関連遺産群」は、アジアや日本の影響を受けながらも島国として独自に発展した王国の文化、信仰に触れ、城跡やその建物様式からは琉球王国の歴史的背景や琉球の人々の英知を感じることができます。ぜひ



この機会に、沖縄の世界遺産を巡ってみてはいかがでしょうか？

<https://www.okinawastory.jp/news/tourism/4064>

今帰仁城跡とは、沖縄本島の北部、本部半島にある歴史的なグスクです。

世界遺産にも登録されたグスクは、沖縄県の県庁所在地である那覇市から車で約1時間30分の距離にあります。

今帰仁城跡の歴史は古く、13世紀までさかのぼるとされています。

堅牢な城壁に囲まれたその城は、標高約100メートルに位置し、やんばるの地を守る要の城でした。

攀安知（はんあんち）時代に、中山軍（ちゅうざんぐん）に滅ぼされてからは、監守（かんしゅ）が派遣されるようになり、1665年に最後の監守が引き上げてからは、祭りを執り行う場所として残されました。

<https://www.nakijinjoseki-osi.jp/guidance.php>

各エリアの特徴

① 北エリア 大自然まるごと体験

ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、ヤンバルテナガコガネなど貴重な生物をはじめ多様な生態系からなる森を持ち、人々が自然に包まれるように暮らす場所。 やんばるの中のやんばるといえる場所。

② 本部半島エリア 集落と暮らしの散策

世界文化遺産の今帰仁城跡とその城下町的な役割を担った今泊集落やフクギ並木の美しい海洋博記念公園に隣接した備瀬集落。 これらに代表される沖縄の農山魚村の原風景を多数残すのがこのエリア。人の暮らす場所に現代と過去の生活文化が交錯する場所でもあり、きっと懐かしくも新鮮な空気を感じ取れるでしょう。

③ 南エリア レジャー、文化や農業等の体験と交流

沖縄を代表するリゾート施設が集中する西海岸とその対照的な表情を見せる東海岸・このエリアは様々な人が交わりやんばるに多様性をもたらす面白ゾーンが多数。少数でも団体でもレジャー体験、文化体験、農業体験など体験メニューが魅力のエリア。

④ 離島エリア シマまるごと体験

やんばるには3つの離島があり、1島1村でそれぞれ特色を放っています。本当に島の良さはやはり離島でないと味わえない、そんなことを感じさせてくれる人の人情やシマの空気があります。本当の沖縄はやはり辺境の地にこそあるのでしょうか。 ディープな島体験ができるエリア。

https://yanbaru-tour.net/about_yanbaru/

(3) やんばる観光の課題

やんばる地域は、前述してきた通り豊かな自然、歴史・文化、人々の暮らしを資源として、観光地として知られるようになり、観光リゾート産業が今日まで発展してきました。

2021年の世界自然遺産登録などを背景に今後もさらに国際的に注目が高まり、多くの観光客に来ていただくことを期待しています。

一方で、沖縄県の観光客数が平成30年に1000万人を超えた当時、一部の観光地においてオーバーツーリズムなどが発生し、自然環境への影響や住環境への影響がみられることもありました。

施設のキャパシティ不足で引き起こされる渋滞や混雑などがあることに加え、観光地を訪れる旅行者のマナー不足によって発生した問題として、ゴミのポイ捨てや集落内の居住地や御嶽などの聖地への侵入、路上駐車など)などが問題となることもありました。



こうした問題は、地球規模で進む環境汚染の問題や人権問題とも無関係ではなく、やんばるに住む我々を含め訪れる人々、地域内外の人々すべてがこうした問題と向き合い、環境保全への意識を高め、マナーを守ることで、この小さな「やんばる」が守られるとともに、「やんばる」からそれを発信し、地球規模の環境問題の解決へとつなげていきたいと考えます。



我々はこれら環境に対するマナーによって引き起こされる課題を解決するため、「地域」・「旅行者」・「自然」の3者が循環するような、経済的にも環境的にも持続可能な観光地を目指します。

3. 私たちが目指す「やんばる」の姿

私たちやんばるでは、持続可能な観光地、「環境共生型観光地」を目指し、下記のような将来像を掲げて取り組んでいきます。

【基本理念】

やんばるサステナブルツーリズム(稼ぐ×守る)

観光による経済活性化と持続可能な観光地づくり

【目標】

【稼ぐ】

- 観光の高付加価値化により経済活性化を推進することで、地域の所得を向上させ、やんばるの生活を豊かにする。

【守る】

- 観光資源となる自然環境はもとより、地域の生活環境を守ることで、住みやすいマチムラを維持し、次世代に繋いでいく持続可能な地域にする。

「環境共生型観光地」とは

新・沖縄21世紀ビジョン基本計画（令和4年5月）の北部圏域の展開の基本方向の中の一節で、「やんばるの自然を守る環境共生型社会の構築」が示されています。ここには、「地域と連携した自然遺産管理や適正な観光管理など、環境保全と持続的な利活用の両立を図る取組を推進します。」とされています。

こうした考え方に基づいて、環境保全と持続的な利活用の両立に取り組む観光地を、「観光共生型観光地」と考えます。

よって、やんばるでは、「環境共生型観光地」として、豊かな資源を財産として維持しながら、稼ぐことで守る、持続可能な観光地を目指します。

4. やんばるに訪れるみなさまへ

(1) やんばるの魅力を次世代へ

沖縄北部「やんばる」には、サンゴ礁の海や貴重な野生生物が生息する森など、亜熱帯海洋性気候に育まれた素晴らしい自然環境がひろがっています。その多様な自然環境の恵みを受け、共生してきた人々の文化・歴史があります。

「やんばる」を訪れるみなさまには、こうした風土を楽しんでいただきたいと願うとともに、この小さな地域で成り立ってきた自然や歴史・文化生活環境を今後も次世代に繋いでいくため、ルールとマナーを守ることで次世代のやんばるを一緒に創ってほしいと願います。

やんばるを訪れるみなさまは、この地の独特の自然環境や文化・歴史とのふれあいを求めて来ていただいていると思います。

まず「やんばる」を感じさせるものがどこにあるかを探してみてください。そしてふれるだけでなく、そこから何かを発見し自分のライフスタイルに活かすことも考えてみませんか。地域にふれ、学ぶことで、やんばるへの訪問が意味深いものとなるでしょう。

(2) 基本的な観光ルールとマナー

① やんばるの自然や文化について理解しましょう

- 訪れる前に、この地域がどういう地域なのか、また、まずは土地の人々の言葉に耳を傾けてみてください。自然環境や文化を乱すことなくふれるための一歩目です。その土地から学べることや楽しみ方、そして注意すべき点などを伝えてもらえましょう。

② やんばるの暮らしや文化を尊重しましょう

- この地域でのルールを理解することが、この地の本質にふれる近道です。自然環境を守るルールだけでなく、暮らしの習慣や生活様式などもルールです。おじゃまする気持ちでルールを理解することが、自然環境や文化を乱すことのない配慮にもつながります。

③ やんばるの自然に悪影響を及ぼす行為はやめましょう

- 島の自然環境や文化は豊かではありますがもろく弱いものです。ふれていただきたいと思いますが、目や耳や鼻や心だけでふれるという感覚も楽しんでみましょう。
- 森など道から離れた場所や、集落の奥深くまで、むやみやたらにはいっていくのはやめましょう。
- ハブなどの危険な生き物に遭遇するかもしれませんし、もとより地域の人々が大事にしている場所かも知れません。
- 島の生態系を壊したり、生活文化を乱してしまうようなものを持ち込み、持ち出しはなさないでください。訪れた後に残すものは足跡だけ、持ち帰るものは思い出と写真だけにしましょう。ただし、人々の写真を撮る際にはプライバシーに配慮し、了承を得てください。

④ ゆったりと楽しみましょう

- 地域を理解するには時間が必要です。できる限り長くその場所で過ごせるようなスケジュールづくりをお願いします。

⑤ 地元の観光案内ガイドを活用しましょう

- 地域を理解するには、地域の自然や歴史文化に精通した案内ガイドから説明を受けることで、より多くの正しい知識を得られ、地域の価値を理解する早道です。また、安全・安心面からもガイドさんを活用することをお勧めします。

⑥ 環境に配慮している事業者を選びましょう

- また、自然や文化・歴史など環境への配慮がなされた宿泊地や交通機関、飲食店、プログラム運営事業者を進んでご利用ください。みなさんの選択が、やんばるらしい情景を残していく地域づくりにもつながります。

⑦ やんばるの特産品を味わいましょう

- 島の特性は地域産のものにあらわれてきます。食べ物や飲み物、お土産物などやんばる特産品を味わいましょう。

⑧ 資源の節約を心がけましょう

- 水、電気などは地域にとって貴重なものです。貴重な資源を大切に、地域の暮らしにふれながら資源の節約を心がけましょう。

⑨ ゴミは最小限に

- ごみはできる限り少なくして、持ち帰ることをこころがけましょう。ごみやたばこのポイ捨てなどはもってのほかです。たばこを吸う人は携帯灰皿を常備しましょう。

⑩ 迷惑駐車禁止(路上駐車等)

- 街なかをはじめ、集落内や耕作地、自然地近くでも路上駐車により通行の妨げになるだけでなく、安全性が損なわれます。地域の仕事や暮らしに影響を与えます。交通ルールを遵守するとともに、車は指定された場所や駐車場に止め、迷惑駐車はやめましょう。

⑪ 沖縄県の環境保全に関するルールを守りましょう

- 沖縄県には「沖縄県環境基本条例」および「ちゅら島環境美化条例」があります。これらの条例は沖縄の自然環境や文化・歴史を保全していくため、訪れるみなさんにも守っていただきたいルールです。理解と遵守をよろしく願いいたします。

(3) 集落地域のルールとマナー

集落では地域コミュニティの秩序を守り、皆が静に暮らしています。集落の環境を壊さず、集落の一員として静に過ごしましょう。旅行者による集落内での騒音やゴミ問題、迷惑駐車などは、地域住民にとって生活環境が脅かされるという恐怖心やストレスに繋がり、関係悪化に繋がりがねません。集落内ではルールを遵守し、地域と良好な関係を保ちましょう。

① 集落内では騒がない

- 集落内では、住民が静に暮らしています。マナーを守り、自身の居住地域と同様に節度を持って、過ごしましょう。

② 人の家を覗かない、無断で入らない、写真を撮らない

- やんばるにはフクギに囲まれた集落など沖縄の原風景が残り、集落一帯が観光スポットの様に感じる場所があります。そのような場所は人が暮らすプライベート空間であります。無断で敷地内に入ったり、写真を撮ったりしないようにしましょう。人に出会ったら。「こんにちは、見てもいいですか？」と声をかけてください。

③ 御嶽や墓地等の聖域に入らない

- 沖縄の御嶽や拝所、お墓などは、神聖な場所です。清掃などの管理は集落などで行っているなど、集落の方々が大事にしている場所であり、勝手に入ってははいけません。
- 近年のパワースポットブームにより好奇心で勝手に入ってくる旅行者などいますが、観光施設として公開されている場所以外には、勝手に入らないでください。

④ 伝統行事や催事は決まりを守って見学

- やんばるには伝統的なお祭りなどがいくつかあります。伝統的なお祭りは、親から子や孫へと地域の若者に引き継いでいくための大事な儀式でもあるため、見学が可能な場合でも決まりを守り祭事の進行を邪魔し妨げることがないように静に見守りましょう。

⑤ 集落内でスピードを出さない

- 集落内は、地域の暮らしの場です。小さなお子さんや高齢者の方々が集落内を歩いていることもあります。集落内を通行する場合は交通ルールを遵守するとともに、歩行者を脅かすことが無いよう、スピードを出さないよう心がけましょう。

⑥ 着衣について

- 集落内では、ビーチが近くても水着だけで出歩くことは控えましょう。水着のままお店に入ることは地域の方から嫌がられることがあります。

(4) 海・山・川など自然地域のルールとマナー

海や山、川などの自然地域では豊かな生態系が生まれ、動植物が棲んでいます。自然環境を損ねないように、配慮しましょう。生き物たちにとって安心して暮らせるはずの自然環境が脅かされると生態系はもろくも損なわれてしまいます。自然地域ではルールを遵守し、負荷を与えないよう心がけましょう。

① ゴミを捨てない

- やんばるには世界自然遺産や国立公園、国定公園、天然記念物なども多く、自然豊かな場所です。しかし、ビーチや山にも数え切れないほどのごみが溢れています。
- ビニール袋やペットボトルなどのいわゆるプラスチックごみは、人が拾い処分しない限り、半永久的に残ったままです。ゴミを捨てることは、汚染を引き起こし、生態系を崩すことも考えられ、決められた場所で捨てるか、持ち帰りましょう。そして、きれいな自然を後世に残せるようにしましょう。

② 生物に餌を与えない

- やんばるの海や山には多くの生き物が住み、生態系を育んでいます。人間が食べ物を与えてしまうと、生き物が健康を害す場合や、生態系を崩す場合があります。生き物が人間に慣れてしまうと、道路や集落に出没し、交通事故に合う確率も高くなります。

③ 動植物を持ち去らない

- やんばるには、海や山には多くの生き物や植物が住んでいます。本島北部はヤンバルクイナで代表される絶滅危惧種など貴重な生き物が多く存在します。持ち去ることで絶滅を早めてしまうことになるため、動植物を持ち去らないでください。

④ 動物の交通事故(ロードキル)に注意

- やんばるの貴重な生物が車で轢かれたり、衝突してしまう交通事故(ロードキル)が発生しています。ロードキルを抑制するため、スピードに注意し、生き物が飛び出してきたても対応できるようにしましょう。

⑤ 危険な場所には立ち入らない

- 自然地域には思わぬ危険がともなう場所が多くあります。例えば森の中にはハブやイノシシなど危険生物の他に、急な斜面や滑りやすい場所があります。また、山道で迷い遭難する例も発生しています。海にも危険生物がいます。また、潮の流れの早い場所や急に深くなっている場所などがあります。海での遭難も後を絶ちません。自然地域を楽しむ場合は決められたエリアの範囲内で楽しみ危険とされる場所には立ち入らないこと。
- 海・山・川など自然地を楽しむ場合は地域のガイドの同行をお勧めします。

コラム ロードキルについて

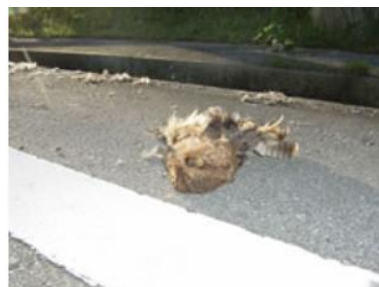
ロードキルとは、車両にひかれて死ぬ轢死、ぶつかって死ぬ衝突死、道路わきの排水溝内へ落ち込み溺れて死ぬ溺死、乾燥して死んでしまう乾涸死などの、道路による影響で野生動物が死亡することをいいます。やんばるでは、ヤンバルクイナ、ケナガネズミ、リュウキュウヤマガメ、イボイモリ、シリケンイモリなど様々ないきものがロードキルにあっています。



ヤンバルクイナ



ホントウアカヒゲ



リュウキュウコノハズク



リュウキュウアオバズク



リュウキュウヤマガメ



カエルの一種

ケガをしている、死んでいるヤンバルクイナを見かけたら至急連絡を！！

ケガをしている、死んでいるヤンバルクイナを見かけたら、

やんばる野生生物保護センター（ウフギー自然館）：0980-50-1025

ケガをしているヤンバルクイナを見かけたら、

クイナダイヤル（NPO 法人どうぶつたちの病院沖縄）：090-6857-8917

までご連絡下さい。

万が一、ヤンバルクイナをひいてしまっても故意でなければ、罪に問われることはありません。迅速な連絡によりヤンバルクイナが助かる可能性が高まります。また、たとえ死んでしまってもその後の事故防止対策に役立てることができます。

出典：<https://www.ufugi-yambaru.com/save/roadkill>（環境省ウフギー自然館）

5. やんばるに住む私たちができること

「やんばる」を訪れる方々は、この地に非日常を求めて来られると思います。それは自然や文化・歴史、ゆったりとした時間の流れなど、ここに住む私たちにとってあたりまえのことかもしれません。また、それは時代の流れの中で自ら失おうとしているものかもしれません。

しかし、やんばる独特の自然や文化・歴史は、過去から大事に受け継がれてきたものであり、未来の子どもたちに引き継いでいかなければならないものでもあります。さまざまな意味で価値のあるものと、改めて認識することが必要です。

地域の自然環境や文化・歴史は、先代から受け継がれたものです。それが今、観光資源という形で価値を表し、財産となっています。

私たちは、こうした資源について、自分の住む場所の自然環境や文化、歴史の特徴を把握することからはじめます。そこから、どういう観光が必要か、そして地域の魅力を活かした観光とはなにかが見えてくるだろうと考えます。

北部地域の「環境共生型観光地」とは、豊かな地域資源を維持しながら地域に活力を生む観光産業づくりをすすめていきます。

1. 自然景観・環境保全に配慮します

- 自然環境・景観は先代から受け継がれてきた我々の財産であり、人間だけでなく地域に住む多様な動植物の住処です。やんばるの暮らしは自然環境や景観を資源として成り立っていることを認識し、今後も守り次世代へと受け継いでいきます。
- また、やんばるの森は世界的にも価値を認められています。これは地球規模の気候と無関係ではありません。また、海も海流を通じて世界とつながっています。地域の自然を守るには、地球規模の環境保全を考えることが重要であることを認識します。

2. 歴史・文化の継承に努めます

- やんばるの歴史・文化は、自然の恵みへの敬意と祖先崇拝や共同体意識などを背景に継承されてきました。それは沖縄らしさを色濃く表し、今後の沖縄観光の財産となっていくでしょう。こうした歴史・文化に誇りをもって次世代につないでいきます。

3. うとういむち(おもてなし)の心でお迎えます

- 「うとういむち」とは、沖縄の方言で「おもてなし」の意味を表します。観光収入はやんばるの産業を支える柱となっています。観光で訪れる皆様に感謝と敬意をもってお迎えし、やんばるを快く楽しんでいただき、ファン、リピーターになっていただくよう、地域全体で「うとういむち」の心でお迎えます。

コラム やんばるを楽しもう

① フルーツ王国やんばる

- やんばるは、「食」の宝庫としても知られ、その中でも亜熱帯ならではのトロピカルなフルーツは輝いています。パイナップル、マンゴー、スイカをはじめ、柑橘系のシークワサー、タンカン、カーブチー、のほか、アセロラ、イチゴなど多種多様なフルーツが生産されています。



② 沖縄そばの名店が多い やんばる

- 沖縄の食といえば、「沖縄そば」が有名ですが、やんばるには沖縄そばの名店が多く、ソーキそばの発祥地ともいわれています。名護市と本部町をつなぐ県道71号線は「そば街道」ともいわれ、沿道に沖縄そばの名店が点在しています。



③ 共同売店

- やんばるでは交通機関が整っていない時代に、集落単位の共同出資で運営を行う共同売店（共同店）が生まれました。食品から生活雑貨など何でもそろうコンビニのような存在で、地域の人々が集まり情報交換や地域の助け合いの拠点としても機能してきました。



④ 「ゆいまーる」とは

- 沖縄方言で「助け合う」「共同作業」のことで、「結い」（他人との結びつき）と「廻る」（めぐる、順番）の組み合わせです。例えば農作物の収穫を皆で助け合い順番に収穫するなどです。やんばるでは地域の結びつきが強く、「ゆいまーる」の心が根付いています。

⑤ やんばるの集落や家屋

- やんばるには伝統的な集落や家屋が残っています。台風や暑さへの対策で軒は低く、屋敷囲いはフクギや石垣、生垣をめぐらせており、これらは防風や防火対策であると同時に、直射日光をさえぎり、屋敷内を快適にする働きをもっています。



⑥ やんばるの伝統行事

- やんばるの各集落では豊年祭や海神祭（ウンジャミ）などの伝統行事が現在でも多くの地域で続けられています。歴史・文化を重んじ、郷土愛に満ちた人々の思いで今日に受け継がれています。



安全安心に旅を楽しむために

緊急時の連絡先について

機関名	住所	電話番号	備考
沖縄県立北部病院	名護市大中 2-12-3	0980-52-2719	
社団法人 北部地区医師会病院	名護市字宇茂佐 1712-3	0980-54-1111	
石川警察署	うるま市石川 東山本町 1-1-1	098-964-4110	うるま市の一部 (旧石川市)、恩納 村、金武町、宜野 座村
名護警察署	名護市東江 5-21-9	0980-52-0110	名護市、国頭村、 大宜味村、東村
本部警察署	本部町大浜 850-1	0980-47-4110	本部町、伊平屋 村、今帰仁村、伊 是名村、伊江村
金武地区消防衛生組合消防 本部	金武町金武 7745	098-968-2020	金武町、恩納村、 宜野座村
名護市消防本部	名護市東江 5-2-29	0980-52-1142	—
本部町・今帰仁村消防組合 消防本部	本部町大浜 850-3	0980-47-7119	本部町、今帰仁村
国頭地区行政事務組合 消防本部	国頭村辺土名 1727	0980-41-5100	国頭村、大宜味 村、東村

観光に関する連絡先について(各市町村の観光協会)

機関名	住所	電話番号	備考
(公財)名護市観光協会	名護市大中 1-19-24	0980-53-7755	
(一社)国頭村観光協会	国頭村字奥間 1569-1	0980-41-2420	
(一社)大宜味村観光協会	大宜味村字津波95	0980-50-5707	
(特非)東村観光推進協議会	東村字慶佐次54-1	0980-51-2655	
(一社)今帰仁村観光協会	今帰仁村仲宗根 230-2	0980-56-1057	
(一社)本部町観光協会	本部町字大浜 881-1	0980-47-3641	
(一社)恩納村観光協会	恩納村字恩納 5973	098-966-2893	
(一社)宜野座村観光協会	宜野座村字漢那 1633	098-968-8787	
(一社)金武町観光協会	金武町字金武 4086-1	098-989-5674	
(一社)伊江島観光協会	伊江村川平519-3	0980-49-3519	
(一社)いげな島観光協会	伊是名村字仲田 177-7	0980-45-2435	
(一社)伊平屋島観光協会	伊平屋村字我喜屋 217-27	0980-46-2526	

【やんばる観光ガイドラインに関するお問い合わせ】

北部広域市町村圏事務組合

名護市宇茂佐の森 5 丁目 2 番地7 TEL:0980-52-7048 FAX:0980-54-1619